

二〇一九年四月一九日

藤棚の下に集合車椅子

さつき

春惜しむ茶庭に奏づけせらぎに

満天

老いてなほ斯く幸せや桜餅

よう子

二〇一九年四月一八日

青空に触るるばかりや天つ藤

よし女

碧眼を笠に隠せし遍路かな

素秀

花のもと笑顔で囲む昼餉かな

もとこ

自動ドア開けばどつと花吹雪

智恵子

二〇一九年四月一七日

溪涼し岩根をくぐる水の音

せいじ

燕来るシャッター閉める訳にゆかず

たか子

磊々を走る一水新樹光

ぼんこ

花屑を蹴りてやまぬ作り滝

明日香

里のバス待つ間に畦の蕨摘む

さつき

躓けば山すみれ咲く岨の道

うつき

反りに反る花片栗の花弁かな

董雨

子規庵の窓さす花菜明かりかな

なつき

ケーブルカー真つ只中や花吹雪

小袖

二〇一九年四月一六日

漁師町つばめ団地といひつべし

智恵子

園丁も俳句通らし牡丹園

さつき

げんげ田に全容の富士現れにけり

なつき

水琴窟茶庭の春を惜しめとぞ

たか子

二〇一九年四月一五日

ベビーカー並べママらの花筵

よう子

靴鳴らしポリビア舞踊花吹雪

なつき

まどろみを誘ふ瀬音春堤

そうけい

目標に余る歩数や花の園

やよい

変幻の雲に癒やされ窓うらら

菜々

二〇一九年四月一四日

花筏二夕分けにせる舳先かな

素秀

虎杖をしがめば若き頃のこと

こすもす

花屑を載せて戻りし愛車かな

よう子

囀りや松の百態古墳山

なつき

二〇一九年四月一三日

ワイパーも迷惑さうな黄沙かな

せいじ

青麦やウエーブのごと日弾く

明日香

陽水の追っかけとして春の宵

うつき

ニハオと声かけられし花筵

よう子

太陽の塔をめざしぬ石鹼玉

うつき

毎日句会みのる選・二〇一九年四月二日